



「わくわくエンジン」が 当たり前前の社会を実現する！ ——NPO法人キーパーソン21での挑戦

会社員とNPO理事の 「二足のわらじ」

僕は平日の昼、一般企業で組織変革担当のマネージャーとして働きながら、主に平日夜や土日の時間を充てて、NPO法人キーパーソン21で会員活動の活性担当の理事を務めるという、いわゆる「二足のわらじ」の生活を送っています（実は社会福祉法人の理事や、市の委嘱を受けてスポーツ推進委員もやっているため、三足、四足のわらじですが…）。

キーパーソン21は、主に小学生・中学生・高校生を対象にしたキャリア教育を行っている団体です。子どもたちの「わくわくエンジン（＝自分の本心、気持ちが向いて、わくわくして動き出さずにはいられない原動力のようなもの）」を引き出し、自己肯定感を高めることで、彼らが自分を活かしていきいきと仕事をして生きていくことを目指して活動しています。小学校・中学校や

高校から依頼を受けて、「夢！ 自分！ 発見プログラム」というゲーム形式のキャリア教育プログラムを、2000年の団体設立から17年間で約3万8000人の子どもたちに提供してきました。

キャリア教育というと、職場体験や職業人の講演などがよく行われますが、キーパーソン21ではこうした「社会を知る」ことの前に、「自分を知る」ことに重きを置いています。両方が備わって初めて「自立すること」につながると考えるからです。「自分を知る」ために、ゲーム形式で楽しみながら「引き出す・認める・伴走する」という関わり方で、子どもたちの「自分で考え、選択し、行動する力」を引き出しています。

こうしたコーチング的な密度の濃い関わり方をするため、学校でのプログラム実施の際には、子ども約4人に1人の割合で大人が付きまします。例えば、3クラスで実施となると20〜30名もの大人が必要になります。



本田 律

認定NPO法人キーパーソン21 理事
【ほんだ・りつ】

1968年生まれ。一般企業でマネージャー職をしながら、NPO法人キーパーソン21の理事を務め、会員活動のまとめ役、わくわくナビゲーター、団体の理念を普及させるエバンジェリストとして幅広く活動している。

この大人たちが、大学生から80代まで約300名のキーパーソン21会員と、協賛企業の社員さんなどからなる「わくわくナビゲーター」であり、会社勤めの会員などは休みを取って平日の昼に参加しています。

昔は超仕事人間だった

今は仕事をしつかりやりつつ、NPOのボランティア活動も仕事並みにやっている僕ですが、昔は超仕事人間でした。

新卒で経営コンサルタント会社に入社して、営業、営業マネージャー、マーケティングなどの仕事を経験してきました。日中は外回りが多く、夕方帰社してから電話やメール、頼まれ事の対応やメンバーの指導などをして、夜の8時、9時からやっとな企画書の作成に取り掛かり、夜中12時に終電で帰宅する。そんな毎日を送っていました。平日はほぼ毎日終電の生活でしたから、土

日は体がクタクタになり、休むこととカミさんの買い物に付いて行くことぐらいしかせず、仕事以外何もない生活を送っていました。そして、それでいいと思っていました。しかし、娘が通っていた保育園の運動会の出し物に参加したことで、保育園のお父さん同士のつながりを経験し、仕事以外の人のつながりの楽しさ、面白さに目覚めました。以後は保育園の父母会副会長、中学校のPTA会長、社会福祉法人の評議員、理事など、子どもを応援する地域活動にのめり込み、自分もそこで居場所ややりがいを見出していきました。

最大の転機、 キャリアコンサルタントの学習

そんな僕の最大の転機は、2012年に訪れます。当時、会社で採用や教育を担当していたため、業務上必要な知識を身につけようとか、資格を取って箔を付けようぐらの表面的な理由で、キャリアコンサルタント資格取得のための勉強を始めました。しかし、学んでいく中で、人のキャリアの相談に乗る仕事をするために、まず自分のキャリアに対する考えを明確にすること、そして、自分と深く向き合うことを突きつけられました。「自分って何を大切に思ってるんだろう？ 今の仕事って自分がやりたいことなの？ 自分がやりたいことって何だろう？」と悩む日々が続きました。翌年、資格を取得した後も思い悩む

日々が続きましたが、この資格を活かすことが自分のやりたいことに一番近そうだと感じ、資格を活かす道を探るために、とにかく多くの方に会って話を聞いたり、勉強会やセミナーに参加したりしていました。そんな中、参加した勉強会のひとつで講師として登壇したのが、キーパーソン21の代



PTA 講演会で生徒に突撃インタビュー

寺子屋体験学習でワークの講評を語る



表・朝山あつこさんだったので。子どもたちのわくわくエンジンを引き出し育むというキーパーソン21の考え方を聞いて、「自分の求めていたことはこれだ！」と直感し、その場で会員になりました。

キャリア教育に対して 感じていた問題意識

「これだ！」と直感したのは、僕がキャリア教育に対して感じていたいくつかの問題意識とびつたり重なったからです。

ひとつは自社の採用面接で会う大学生たちから感じていた問題意識です。長年採用担当をしていたので、数多くの大学生の面接をしてきました。しかし、彼らの多くが自分のことを自分の言葉で話すことができない、自分のやりたいことや大切にしていることと就きたい仕事を結び付けて考え、語るができないと感じていました。大学3年生になってから就職のために小生先でキャリアを考え始めるのではなく、もっと早い時期から、自分の人生を主体的に生きていくために、時間をかけて考える機会の必要性を感じていました。

また、高校生の娘を持つ父親としても問題意識を持っていました。当時高校1年生だった娘は、文理選択に悩んでいました。そこで、将来何がしたいと思っているか聞いたところ、将来したいことはおろか、好きなもの、興味のあるものも無いと…。ショックでした。娘には何か夢中になるも

のを見つけてほしいと思い、様々な習い事をさせてきましたが、本人が心から楽しい、やりたいと思っていたのではなく、結局は親の自己満足だったのです。面接で会う大學生のことを憂っていました、何のことはない、我が娘も同じだったのです。

しかし、僕が面接してきた大學生たちや我が娘が特別なわけではなく、そういう子どもたちは割と普通に世の中にいるだろうとも思いました。「子どもたちが自分の人生を主体的に考え、生きることができるようにならなければ」そんな問題意識を強く持ちました。

そして、何と言っても自分です。当時40代も半ばを迎えていた僕自身が、自分のやりたいことが分からず、悩んでいたのです。子どものうちに自分のわくわくエンジンを知り、それを大切にして生きていくことの必要性を身をもって感じていました。

第三の大人が関わることの 意味を実感した

キーパーソン21の考え方に共感し会員になつてから、まず、わくわくナビゲーター養成講座を片っ端から受講しました。学校に行つてプログラムを提供するためには、プログラムごとの養成講座を修了して、わくわくナビゲーターの認定を受ける必要があります。子どもたちと接する機会をできるだけ多く持つため、そして多様なアプローチで支援できるようにと考えて、4コー



寺子屋体験学習終了後、全員で記念撮影

スある養成講座を全て受講しました。

そしていよいよ、実際に学校へわくわくナビゲーターとして派遣されることになりました。ある中学校のクラスに、コミュニケーションゲームというプログラムの実施に行った時のことです。事前に担任の先生から、「うちのクラスは生徒同士の関わりが希薄で、お互いに一度も話したことが無いという生徒も結構いるような状況です」と言われました。

教室に入ると、確かに生徒同士に距離があるように感じられ、このクラスを盛り上げるのは大変そうだなと正直思いました。しかし、コミュニケーションゲームがその雰囲気を変えました。プログラムの中で、大人が子どもたちの保護者役になり、子どもたちが考えた設定で家族を演じる場面が

あります。互いの距離を近づけるきっかけづくりのために、あだ名で呼び合うことを提案してみました。

すると、僕のことを「リチャード父さん」、生徒同士でも「ステファニー」とか「トーマス」というあだ名を付けて呼び合い始めたのです。それを機に、今まで距離があった生徒たちが打ち解け合い、互いの長所を発見できるようになっていきました。僕たちのような第三の大人が学校現場に入ること、子どもたちが自分や友達の良いところを発見し、自信を持つていくという変化を目の当たりにすることができました。

団体の課題解決と会員の 活躍を融合した新たな活動

学校現場に行つてプログラムを実施して感じたのは、子どもたちの目に見える変化に関わることができ、彼らの明るい未来のために貢献できたという実感です。わくわくナビゲーターとして活動することは、とても楽しく、自己肯定感で満たされました。しかし、何回か学校現場に行き、団体への関わりが深まるにつれて、キーパーソン21の活動を広めていくためには、資金も人材もノウハウも、様々なことが不足していることが見えてきました。

また、自分も学校現場にできるだけ行きたいものの、その度に休みを取らなければならず、行ける回数に限りがありました。他会員も同様の悩みを抱えていたようで、



キャリア教育アワード最優秀賞受賞を喜ぶ理事たち
(前列左の女性が朝山代表)

「もつと学校に行きたいけど、休みが取れず行けない。キーパーソン21の活動に思っただよように参加・貢献できない」という声をちらほら聞きました。それは会員の退会につながりかねない由々しき問題でした。

そこで仲間の会員と相談し、これらの課題を一挙に解決する手立てを思いつきました。代表や事務局任せにするのではなく、会員それぞれが持つ様々なスキルやネットワークなどを活かすことで、自らの参加・貢献意識を満たしつつ、キーパーソン21が抱える組織課題に取り組み、それらを解決していくのです。徐々に活動範囲を広げ、現在では、ファンドレイジング(財源獲得)、会員共感度向上、イベント企画・運営、寺子屋体験学習など10のチームが活動しています。僕は会員共感度向上チームのリーダーとして会員報の発行に携わるなど、ほとんどのプロジェクトに関わっています。

**周囲の大人の壁を乗り越え、
大人も子どもも、わくわく!**

実は「夢! 自分! 発見プログラム」を実施して、子どもたちがわくわくエンジンを発見し、自分の思いに従って生きていくこうとしても、周囲の大人たちがそれを阻害してしまうことがよくあります。その原因は至って簡単で、大人たちが自分のわくわくエンジンに従って生きていないのです。親や先生が言うこと、世の中で良い、正しい、安定的とされていることを盲目的

に受け入れ、それで人生の選択をしてきたため、自分がやりたいことや大切にしていることが分からないのです。キーパーソン21と出会った頃の僕と同じです。世の中はこんな大人で溢れていると思います。

「辛くても苦しくても我慢するのが仕事だ」「仕事や社会はそんなに甘いもんじゃない」。したり顔でうそぶく大人が大勢いますが、果たしてそうでしょうか。辛いこと苦しいことを我慢してやって、自分の実力が最大限に発揮できるでしょうか。それよりも自分がわくわくすることをやった方が、何倍も力が出るのではないのでしょうか。

わくわくナビゲーター養成講座を受講した会員たちがよくこんな感想を言います。「自分のわくわくエンジンを初めて考えた」「子どもの時に受講したかった」「まず大人が受けるべきだ」と。その通りなんです。そこで、キーパーソン21では、大人が子どもたちのわくわくを大切にしたい生き方を理解し応援するために、そして大人自身が自分のわくわくを大切に生きていくために、親向け、大人向け、親子向けなどの取り組みに力を入れ始めています。

**「わくわくエンジン」が
当たり前前の社会を実現する!**

これまでキーパーソン21の運営は、学校などからの依頼を本部事務局が全て受け、会員がプログラムを実施してきました。協賛企業やパートナーとの連携は一部にとど

まり、実施地域や回数に限られていました。キーパーソン21では現在、日本全国にわくわくエンジンの考え方を広めるために、「わくわくイノベーター(仮称)」「わくわくエンジン」の考え方に賛同し、自らが所属する組織やコミュニティでの普及・展開を推進してくれる方)や事業提携パートナーを発掘しサポートすることや、各地域の会員による自主自立的な活動を支援することに軸を移そうとしています。

そこで重要なのが、広報活動とモデルづくりです。僕も代表や他の理事たちと役割分担をして、講演や執筆などで考え方を広め賛同者を増やす活動や、キーパーソン21と親和性の高い組織やコミュニティでの普及・展開のモデルづくりに尽力しています。目標は、2020年までに「わくわくエンジン」が当たり前前の社会を実現することです!



大学生会員の講演を応援する大会員の会